

平成18年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

- 平成18年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、本年度より全ての全日制高等学校で推薦選抜か特色選抜を実施することとなり、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む31校のべ43学科、特色選抜実施校は15校のべ19学科であった。
推薦選抜、特色選抜合わせて、6,857名が出願し、2,874名が入学許可予定者となった。
- 一般選抜では、平成15年度から、従来の志願登録制度を出願制度に改め、二次選抜の実施や全日制課程と定時制課程を同一日程で実施している。学力検査においては、受検倍率1.08倍であった。また、出願変更率は7.9%で、前年度の出願変更率7.4%に比べ0.5ポイント上昇した。
- 二次選抜の結果、全日制のすべての高等学校で定員が充足した。これは、記録が残っている昭和43年度入試以降初めてのことである。

<推薦選抜>

1 出願状況

募集枠1,996名に対して、出願者総数は、2,575名(推薦選抜としては過去最高の数字)で、出願倍率は、1.29倍であった。

2 受検状況および入学許可予定者

受検者総数2,573名に対し、入学許可予定者総数1,878名で、合格率は73.0%であった。(前年度は、75.4%)

<特色選抜>

1 出願状況

募集枠996名に対して、出願者総数は、4,282名であった。出願倍率は、4.30倍であった。

2 受検状況および入学許可予定者

受検者総数4,263名(欠席19名)に対し、入学許可予定者総数996名で、合格率は23.4%であった。

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況 ()は前年度のデータ

出願者数 8,911名(前年度10,489名) 確定出願者数 8,847名(前年度10,391名)
確定出願倍率

全日制1.11倍(1.09倍) 定時制0.56倍(0.64倍) 全・定あわせて1.09倍(1.07倍)

2 出願変更状況

出願変更者数 700名(うち辞退者65名)

出願変更率 7.9%(前年度 7.4%)

(1) 学科別出願変更率では、農業学科が14.7%と最も高かった(前年度 商業学科19.5%)。

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数は、390名で、出願変更率は7.0%であった。

3 受検者数

受検者総数 8,809名 1.08倍

全日制8,659名 1.10倍(前年度 1.08倍) 定時制150名 0.54倍(前年度0.62倍)

4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数は、7,935名で、合格率90.1%(前年度 91.0%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科
14校16科 (前年度 17校30科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集校・科および募集定員

全日制 9校10科 59名、定時制 5校6科 132名、全・定あわせて 14校16科 191名

2 出願者数および出願倍率

全日制102名(1.73倍)、定時制 61名(0.46倍)、全・定あわせて 163名(0.85倍)

3 受検者数および受検倍率

全日制98名(1.66倍)、定時制 58名(0.44倍)、全・定あわせて 156名(0.82倍)

4 入学許可予定者数および合格率

全日制59名(60.2%)、定時制 57名(98.3%)、全・定あわせて 116名(74.4%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

入学許可予定者総数 10,925名 実入学者数 10,913名

定員充足率 99.2%(前年度98.3%) ただし全日制のみでは99.9%

平成18年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日制の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

本年度より、すべての全日制高等学校で推薦選抜か特色選抜を実施することになり、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む31校のべ43学科（普通科21、専門学科17、総合学科5）であった。特色選抜実施校は、15校のべ19学科（普通科13、専門学科6）であった。選抜は、同一日の2月9日に実施した。

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中99校（昨年度101校中100校）、県外の中学校は16校であった。出願者数は、普通科で1,049人（昨年度561人）、農業学科で291人（昨年度194人）、工業学科で231人（昨年度391人）、商業学科で355人（昨年度329人）、家庭学科で115人（昨年度136人）、体育学科で43人（昨年度76人）、美術学科で29人（昨年度52人）、国際学科で40人（昨年度14人）、総合学科で422人（昨年度322人）であった。この結果、出願者数合計は、2,575人（昨年度2,402人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した普通科では1.30倍（昨年度1.21倍）、専門学科では1.26倍（昨年度1.29倍）、総合学科では1.34倍（昨年度1.03倍）となり、実施学科全体では1.29倍（昨年度1.23倍）であった。この結果、1,878人が入学許可予定者となり、合格率は73.0%（昨年度75.4%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中103校、県外の中学校は13校であった。出願者数は、普通科で3,590人、工業学科で508人、理数学科で103人、音楽学科で42人、福祉学科で39人であった。この結果、出願者数合計は4,282人となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では5.25倍、専門学科では2.22倍となり、実施学科全体では4.30倍であった。この結果、996人が入学許可予定者となり、合格率は23.4%であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて2,874人が入学許可予定者となり、合格率は42.0%であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目 学科	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	許可予定 者数 C	合格率 C/B' (%)		
		%	人数A'							
推薦選抜 普通科	3,800	10~30	804	1,049	1,048	1.30	768	73.3		
推薦選抜 専門学科	農業	480	50	240	291	290	1.21	236	81.4	
	工業	480	40~50	216	231	231	1.07	173	74.9	
	商業	480	50	240	355	355	1.48	239	67.3	
	家庭	200	35~50	80	115	115	1.44	69	60.0	
	体育	40	75	30	43	43	1.43	30	69.8	
	美術	40	75	30	29	29	0.97	29	100.0	
	国際	80	50	40	40	40	1.00	35	87.5	
	小計	1,800		876	1,104	1,103	1.26	811	73.5	
総合学科	1,000	30~40	316	422	422	1.34	299	70.9		
合計	6,600		1,996	2,575	2,573	1.29	1,878	73.0		
特色選抜	普通科	3,520	10~30	684	3,590	3,573	5.25	684	19.1	
	専門学科	工業	520	40~50	232	508	507	2.19	232	45.8
		理数	80	50	40	103	102	2.58	40	39.2
		音楽	40	50	20	42	42	2.10	20	47.6
		福祉	40	50	20	39	39	1.95	20	51.3
	小計	680		312	692	690	2.22	312	45.2	
合計	4,200		996	4,282	4,263	4.30	996	23.4		
総合計	10,800		2,992	6,857	6,836	2.29	2,874	42.0		

(2) 一般選抜の結果

3月8日に実施した一般選抜は、学力検査定員8,126人に対し、確定出願者数は8,847人であり、確定出願倍率は1.09倍であった。この結果、7,935人が入学許可予定者となり、合格率は90.1%であった。

3月22日に実施した二次選抜は、二次選抜定員191名に対し、受検者数は156人であった。この結果、116人が入学許可予定者数となり、合格率は74.4%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成18年度	平成17年度
学力検査	学力検査定員 A		8,126	9,712
	出願者数		8,911	10,489
	確定出願者数 (倍率)		8,847 (1.09)	10,391 (1.07)
	受検者数 B (倍率)		8,809 (1.08)	10,340 (1.06)
	不合格者数		874	935
	入学許可予定者数 C		7,935	9,405
合格率 C/B (%)			90.1	91.0
二次選抜	二次選抜定員 A-C		191	308
	出願者数		163	141
	受検者数 D (倍率)		156 (0.82)	139 (0.45)
	不合格者数		40	14
	入学許可予定者数 E		116	125
	合格率 E/D (%)		74.4	89.9
合計			8,051	9,530

(3) 入学者選抜の結果

3月15日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,809人であり、その内、推薦選抜による者は1,878人、特色選抜による者は996人、一般選抜による入学許可予定者数は7,935人であった。また、3月24日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は116人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,925人となった。そのうち、全日制では募集定員10,720人と同数の入学許可予定者数となり、すべての高等学校において定員が充足した。

4月10日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,913人で、募集定員の99.2%（昨年度98.3%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成18年度			平成17年度
			全日制	定時制	合計	
※ 県内中学校卒業予定者数					14,036	14,150
募集定員 A			10,720	280	11,000	11,520
推薦選抜入学許可予定者数			1,875	3	1,878	1,808
特色選抜入学許可予定者数			996	—	996	
一般選抜入学許可予定者数			7,790	145	7,935	9,405
二次選抜入学許可予定者数			59	57	116	125
総計	入学許可予定者総数		10,720	205	10,925	11,338
	実入学者数 B				10,913	11,326
	定員充足率 B/A (%)				99.2	98.3

※県内中学校卒業予定者数は3月3日現在（学校教育課調べ）

中高一貫教育に係る併設型高等学校の特例による入学許可予定者は除く。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ農業学科、工業学科、商業学科の4学科（昨年度7学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科													
		普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合		
募集定員	A	11,000	7,440	480	1,040	520	200	80	40	40	40	40	80	1,000	
推薦選抜	募集枠(人数)	1,996	804	240	216	240	80	—	30	—	30	—	40	316	
	受検者数	B	2,573	1,048	290	231	355	115	—	43	—	29	—	40	422
	入学許可予定者数	C	1,878	768	236	173	239	69	—	30	—	29	—	35	299
	合格率	C/B	73.0	73.3	81.4	74.9	67.3	60.0	—	69.8	—	100	—	87.5	70.9
特色選抜	募集枠(人数)	996	684	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—	—	
	受検者数	D	4,263	3,573	—	507	—	—	102	—	42	—	39	—	
	入学許可予定者数	E	996	684	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—	
	合格率	E/D	23.4	19.1	—	45.8	—	—	32.9	—	47.6	—	51.3	—	
一般選抜	学力検査定員	A-(B+D)	8,126	5,988	244	635	281	131	40	10	20	11	20	45	701
	確定出願者数		8,847	*5,507	283	598	284	143	**	**	24	**	**	34	737
	受検者数	F	8,809	*5,483	282	595	282	142	**	**	24	**	**	34	735
	入学許可予定者数	G	7,935	5,935	244	547	250	131	40	10	20	4	20	45	689
	合格率	G/F	90.1	***	86.5	91.9	88.7	92.3	***	***	83.3	***	***	132.4	93.7
	二次選抜	二次選抜定員	A-(B+D)-E	191	53	—	88	31	—	—	—	—	7	—	—
二次選抜	出願者数		163	73	—	58	3	—	—	—	—	7	—	—	22
	受検者数	H	156	69	—	56	3	—	—	—	—	7	—	—	21
	入学許可予定者数	I	116	42	—	52	3	—	—	—	—	7	—	—	12
	合格率	I/F	74.4	60.9	—	92.9	100	—	—	—	—	100	—	—	57.1
総計	入学許可予定者		10,925	7429	480	1,004	492	200	80	40	40	40	40	80	1,000
	実入学者数	J	10,913	7419	479	1,003	492	200	80	40	40	40	40	80	1,000
	過不足	J-A	87	21	1	37	28	0	0	0	0	0	0	0	0
	定員充足率		99.2	99.7	99.8	96.4	94.6	100	100	100	100	100	100	100	100
前年度定員充足率		98.3	99.0	99.4	94.2	97.3	96.4	100	100	100	100	100	81.3	100	

* 学校出願の数を除いた数。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて次の別表に示す。

***学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科								
		普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	福祉	
一般選抜	学力検査定員	A-(B+C)	440	40	288	10	136	11	112	20
	確定出願者数		568		366		171		132	
	受検者数	D	566		365		169		132	
	入学許可予定者数	E	440	40	288	10	136	4	111	20

3 旧通学区域別普通科（全日制）の入学許可予定者数等について

表5は、大津・湖南・甲賀の各旧通学区域の普通科（全日制）の各選抜における入学許可予定者数等を示したものである。

旧大津通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、364人であり、そのうち、学区内は249人、学区外は115人であった。一般選抜での入学許可予定者は、1,476人であり、そのうち、学区内は1,084人、学区外は392人であった。この結果、入学許可予定者総数1,840人となり、学区内は1,333人、学区外は507人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が72.4%、学区外が27.6%であった。

旧湖南通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、262人であり、そのうち、学区内は166人、学区外は96人であった。一般選抜での入学許可予定者は、1,218人であり、そのうち、学区内は817人、学区外は401人であった。この結果、入学許可予定者総数1,480人となり、学区内は983人、学区外は497人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が66.4%、学区外が33.6%であった。

旧甲賀通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、212人であり、そのうち、学区内は168人、学区外は44人であった。一般選抜での入学許可予定者は、733人であり、そのうち、学区内は668人、学区外は65人であった。二次選抜では、15人が合格し、そのうち、学区内は3人、学区外は12人であった。この結果、入学許可予定者総数960人となり、学区内は839人、学区外は121人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が87.4%、学区外が12.6%であった。

表5 大津・湖南・甲賀旧通学区域の普通科（全日制）の入学許可予定者数等

項目	大津		湖南		甲賀	
	18年度	17年度	18年度	17年度	18年度	17年度
募集定員	1,840	1,800	1,480	1,480	960	1,040
推薦選抜、特色選抜入学許可予定者合計	364	44	262	68	212	124
学区内	249(68.4)	42(95.5)	166(63.4)	59(86.8)	168(79.2)	108(87.1)
学区外A	97(26.6)	2(4.5)	55(21.0)	9(13.2)	28(13.2)	16(12.9)
学区外B	18(4.9)	—	41(15.6)	—	16(7.5)	—
一般						
入学許可予定者数 合計	1,476	1,756	1,218	1,388	733	905
学区内	1,084(73.4)	1,455(82.9)	817(67.1)	1,140(82.1)	668(91.1)	883(97.6)
学区外A	346(23.4)	301(17.1)	300(24.6)	248(17.9)	35(4.8)	22(2.4)
学区外B	46(3.1)	—	101(8.3)	—	30(4.1)	—
二次						
入学許可予定者数 合計	—	—	—	8	15	3
学区内	—	—	—	6(75.0)	3(20.0)	2(66.7)
学区外A	—	—	—	2(25.0)	8(53.3)	1(33.3)
学区外B	—	—	—	—	4(26.7)	—
入学許可予定者総数	1,840	1,800	1,480	1,464	960	1,032
学区内	1,333(72.4)	1,497(83.2)	983(66.4)	1,205(82.3)	839(87.4)	993(96.2)
学区外A	443(24.1)	303(16.2)	355(24.0)	259(17.7)	71(7.4)	39(3.8)
学区外B	64(3.5)	—	142(9.6)	—	50(5.2)	—

注 ・平成17年度の湖南3通学区域の学区外許容限度は、大津通学区域で20～24%、湖南・甲賀通学区域は20%であった。

- ・学区内および学区外の（ ）の数值は、それぞれの入学許可予定者に対する割合〔%〕を示す。
- ・学区外Aは、大津・湖南・甲賀旧通学区域の内の学区外を示す。
- ・学区外Bは、湖東・湖北・湖西旧通学区域、県外を示す。

表6は、湖東・湖北・湖西の各旧通学区域の普通科（全日制）の各選抜における入学許可予定者数等を示したものである。

旧湖東通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、285人であり、そのうち、学区内は256人、学区外は29人であった。一般選抜での入学許可予定者は、1,187人であり、そのうち、学区内は1,109人、学区外は78人であった。二次選抜では、8人が合格し、そのうち、学区内は7人、学区外は1人であった。この結果、入学許可予定者総数1,480人となり、学区内は1,372人、学区外は108人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が92.7%、学区外が7.3%であった。

旧湖北通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、274人であり、そのうち、学区内は257人、学区外は17人であった。一般選抜での入学許可予定者は、842人であり、そのうち、学区内は827人、学区外は15人であった。二次選抜では、4人が合格し、学区外が4人であった。この結果、入学許可予定者総数1,120人となり、学区内は1,084人、学区外は36人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が96.8%、学区外が3.2%であった。

旧湖西通学区域では、推薦選抜と特色選抜を合わせた入学許可予定者は、55人であり、そのうち、学区内は50人、学区外は5人であった。一般選抜での入学許可予定者は、384人であり、そのうち、学区内は375人、学区外は9人であった。二次選抜では、1人が合格し、学区内が1人であった。この結果、入学許可予定者総数440人となり、学区内は426人、学区外は14人であった。また、入学許可予定者数に対する割合は学区内が96.8%、学区外が3.2%であった。

表6 湖東・湖北・湖西旧通学区域の普通科（全日制）の入学許可予定者数等

項目		湖 東		湖 北		湖 西	
		18年度	17年度	18年度	17年度	18年度	17年度
募集定員		1,480	1,680	1,120	1,160	440	440
推薦選抜、特色選抜入学許可予定者合計		285	59	274	152	55	—
者	学区内	256 (89.8)	59	257 (93.8)	152	50 (90.9)	—
	学区外	29 (10.2)	—	17 (6.2)	—	5 (9.1)	—
一 般	入学許可予定者数 合計	1,187	1,568	842	1,008	384	440
	学区内	1,109 (93.4)	1,568	827 (98.2)	1,008	375 (97.7)	440
	学区外	78 (6.6)	—	15 (1.8)	—	9 (2.3)	—
二 次	入学許可予定者数 合計	8	23	4	—	1	—
	学区内	7 (87.5)	23	0 (0)	—	1 (100)	—
	学区外	1 (12.5)	—	4 (100)	—	0 (0)	—
入学許可予定者総数		1,480	1,650	1,120	1,160	440	440
	学区内	1,372 (92.7)	1,650	1,084 (96.8)	1,160	426 (96.8)	440
	学区外	108 (7.3)	—	36 (3.2)	—	14 (3.2)	—

注 ・学区内および学区外の（ ）の数値は、それぞれの入学許可予定者に対する割合〔%〕を示す。

4 学力検査における出願変更者数について

表7は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,911人に対し、出願変更者数は700人（昨年度771人）、出願変更率は7.9%（昨年度7.4%）となり、確定出願者数は8,847人であった。

各学科別の出願変更率は、農業学科の14.7%が最も高く（昨年度の最高は商業学科が19.5%）、以下、商業学科、工業学科の順であった。

表7 学科別の出願変更者数

項 目 学 科	学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出 願者数 C	(昨年度)		
						出願 変更 者数	出願変 更率 (%)	
* 普通	5,012	5,552	390	7.0	5,507	523	6.5	
農業	244	307	45	14.7	283	29	9.8	
工業	635	587	70	11.9	598	76	11.3	
商業	281	282	35	12.4	284	85	19.5	
家庭	131	126	3	2.4	143	15	8.5	
音楽	20	25	1	4.0	24	0	0	
国際	45	29	1	3.4	34	0	0	
総合	701	753	56	7.4	737	43	5.6	
学 校 出 願	普通・理数	480	568	29	5.1	568		
	普通・体育	298	404	55	13.6	366		
	普通・美術	147	141	2	1.4	171		
	普通・福祉	132	137	13	9.5	132		
合 計		8,126	8,911	700	7.9	8,847	771	7.4

* 普通科は学校出願を除く

5 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全て全日制の課程で、愛知高等学校、北大津高等学校（国際文化科）、水口高等学校（国際文化科）、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の5校のべ10科（昨年度と同じ）であった。また、受検生の関心・意欲を見るための点数化しない面接を実施した学校は、全日制の課程で3校のべ7科（昨年度は4校のべ10科）、定時制の課程では、大津清陵高校の昼間部・夜間部であった。実技検査を実施した学校は、八幡工業高等学校、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の3校のべ7科（昨年度はなし）であった。

なお、作文については実施校はなかった。

6 学力検査について

(1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入試から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど工夫した。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、伝えたい事柄、考えや気持ちを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図や統計、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの、実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の科目の配点に比重をかける傾斜配点は、水口高等学校国際文化科で英語の配点を150点満点（5教科合計で550点満点）とする方式の傾斜配点を実施し、草津東高等学校体育科は国語、数学、英語の3教科のうち得点の高い2教科を150点満点（5教科合計で600点満点）とする傾斜配点を実施した。

また、八幡工業高等学校では、社会の検査に代えて実技検査を実施した。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は、国語52.5点、数学41.8点、社会50.0点、理科44.6点、英語58.0点であった。

国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、伝えたい事柄、考えや気持ちを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「素材として質・量ともに適当であった」「文意がわかりやすく解答しやすい」「設問の内容として基礎的な言葉の力、読解力、表現力を問う問題がバランスよく盛りこまれていた」「問題文が身近で深みがある」などの意見があった。

各問いについては、作文に関して「何について書くかがはっきりしてよかった」「グラフの読みとりを求めた意欲的な出題」「読解力をみるうえではきわめて良問」「自らの言語活動を振り返らせるよい問題」などとする意見があった。

また「古典」に関する出題について、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めさせる問いに対しては「古典分野の基礎的な力をみるうえで良問である」などの意見があった。

3 解答の分析

㊦において、漢字の問いについてはおおむね良好であったが、「怠惰」の読み、「放映」の書きの正答率が低かった。「動詞の活用の種類」についての問いは、正答率が40.3%とやや低く、また、歴史的仮名遣いについての問いの正答率も44.9%とやや低かった。このことから、古文に親しむ態度の育成を今後も一層すすめるとともに、言葉のきまりなどを正しく理解する力の育成など、言語事項に関する基礎的な力を身につけさせる必要がある。また、文脈の中における語句の意味を正確にとらえて答えを選んだり、要旨を的確にとらえて答えを選ぶ問いについては、正答率が約60%程度であり、おおむね良好であったが、文章の主題にかかわって読み取ったことを字数制限を設けて書き表させる問いの正答率は6.1%と低かった。文章の展開に即して内容をとらえ、指示にしたがい字数内で要約する力のさらなる育成が求められる。

㊧においては、指示された内容を抜き出す問い、文と文との関係を考えながら適切なことばを選ぶ問い、表現にこめられた作者の意図を文章全体から読み取って答えを選ぶ問いの正答率が約50%程度であった。それに比べ、指示された言葉に続けて記述したり、答えを適切な分量に要約して記述する問いの正答率が低いことから、文章の要旨を正確にとらえる力とともに、指示された条件にしたがって要約し、書き表す力のさらなる育成が望まれる。

㊨の作文では、示されたグラフを正確に読み取る力や、自分の意見を決められた字数内でまとめて端的に書き表す力を求めたが、グラフの分析は適切にできてはいるものの、伝えたい事柄や自分の考えや気持ちまで明確に書き表しきれていない解答が多く、正答率も11.5%と低かった。このことから、今後とも、読み取った内容を客観的に書き表す学習に加えて、自分の思いや考えを的確に書き表す力を育成することが望まれる。

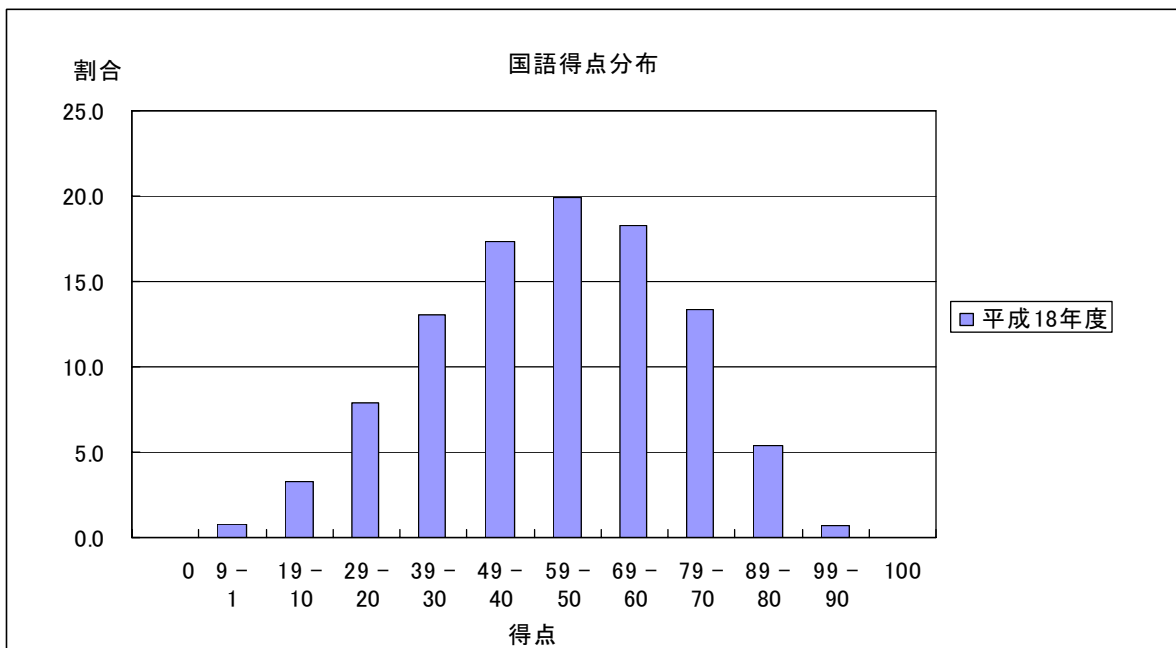
全体として、文章を正確に読み取り、書かれた内容を理解する力についてはおおむね身につけていると思われる。しかし、自分が理解した内容および自分が主張したい考えや思いなどを、指示された条件にしたがって書き表す力や、制限された字数内にまとめて適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
一	1	① 21.6
		② 93.0
		③ 98.4
		④ 59.6
		⑤ 75.6
	2 40.3	
	3 46.0	
	4 58.8	
	5 44.9	
	6 60.2	
7 6.1		

問題区分		正答率 (%)
二	1	① 85.0
		② 62.7
		③ 91.7
		④ 92.4
		⑤ 79.9
	2 51.1	
	3 59.2	
	4 15.5	
	5 47.0	
	6 11.5	
三	11.5	

年 度	平均点	標準偏差
平18 (100点満点)	52.5	18.5



数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「身近な題材を多く取り入れ、また中学の学習内容全般に渡ってバランス良く出題されており、生徒の総合的な数学の力をみるのにふさわしい出題であった。」「基本的な問題から応用問題まで幅広く出題され、質・量ともに受験生の学力を測るのにふさわしい問題であった。」「そうじ分担表や時計のように、身近なものの中に題材を求め、数学的な見方や考え方のよさを認識できたのではないか。一方で、関数的な見方・考え方、図形的な発想を問う出題にもなっていた。」などの意見が寄せられた。

大問①、②については「日頃見慣れているものを題材としての出題でおもしろい。」「ユニークで興味深い。」「工夫されていて斬新な感じがする。」などの意見があった。また、大問③については、「動点をもとに辺の長さ・面積などを求めさせ、関数的な見方・考え方をみるのに適切な問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、数や文字の計算といった基礎的・基本的な問題については正答率が高く、よく理解できていた。二次方程式や確率の問題についても正答率が高く、基本的な解法が身につけている。一方、2乗に比例する関数に図形を組み入れた問題や、数の規則性の問題、そうじ分担表を素材に与えられた条件を数学的に考察する問題の正答率は低かった。事象を数理的に考察する力、問題の意味をしっかりと読みとり数学的に考察する力を育成する必要がある。

②の時計を素材にした図形の問題では、証明問題の正答率が高く、基本的な証明についての学習の成果がみられる。長針と短針のつくる角度を求める問題は、正答率がやや低く、日頃から時計の針の動きなど身の回りの事象に対して数学的な見方や考え方をする姿勢が望まれる。垂直二等分線や角の二等分線を使う作図問題および三角形の相似比を求める問題の正答率も低く、図形の性質に関する理解や表現・処理の仕方、三平方の定理や相似比などで図形を総合的に考察していく力を身につけることが求められる。

③の長方形の边上を点が移動する問題では、文字を使って座標を表す問題は正答率が高かったものの、2点間の距離を求める問題は標準的な問題であるにも関わらず正答率が低かった。グラフを描く問題や条件を満たす点Pを見つける問題は、文字を使って計算したり、動点によって長さや面積が変化するかしないかを見極める必要があるため、正答率が低かった。確かな計算力と数理的に考察し処理する力を育成することが望まれる。

全体として、数や式の簡単な計算や、方程式や図を使った基礎的・基本的事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、学習した内容を組み合わせて総合的に思考し数学的に処理していく力や、日常の体験の中に数理的な視点を持ち、論理的に考察する力をより一層育成することが望まれる。

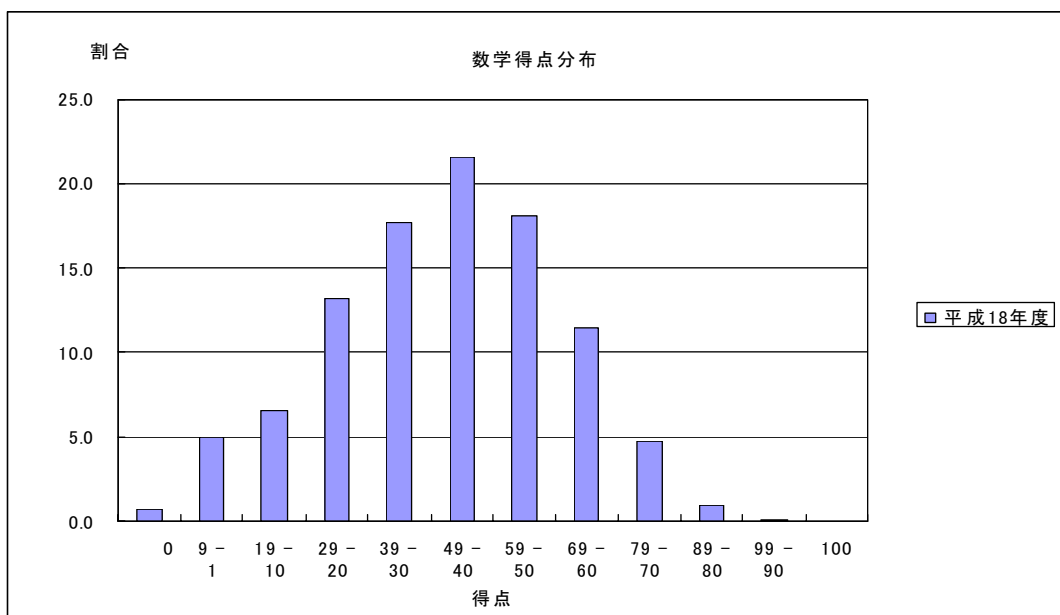
数 学

問題区分		正答率 (%)	
1	(1)	①	98.5
		②	72.9
		③	87.2
		④	77.3
		⑤	82.4
	(2)		82.8
	(3)		49.0
	(4)	①	60.8
		②答	33.0
		②式	13.9
	(5)	①	19.9
		②	28.1

問題区分		正答率 (%)	
2	(1)		25.7
	(2)		19.9
	(3)	①	44.3
		②	1.0

問題区分		正答率 (%)	
3	(1)		30.2
	(2)	①	45.0
		②	17.8
	(3)	①	5.5
		②	0.1

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平 18 年 (100 点 満 点)	41.8	18.4



1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図や統計、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「知識の量を問うことよりも、グラフや資料を通して社会的事象を多面的・多角的に見たり考えたりする問題が多く、良問と言える」「単なる暗記力ではなく、地図・統計・図表などの各種資料から受検生の判断力、表現力をみる問題で評価できる」「単に知識を覚えているかではなく、作業をさせたり、思考力を問うなど全体的にいい問題であった。また、3分野のバランスも適切であった」「地球儀を使って世界的な視野から時差、方位、位置関係を求めさせる問題や、近年の日本の抱える問題点を問う出題は大変評価できる」「地理に資料分析の力を求め、日本と世界、地域社会と日本という関係の中で考察させる良問であった」「日本史の大きな流れを捉えつつ、全時代に渡って日本と世界の歴史を関連づけた点がよかった」「日々の学習活動を反映できる良問であった」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、地球儀をもとに、緯度と経度、方位や時差についての基本的事項の理解をみるとともに、資料などを活用して、人口や農作物について多面的・多角的に考察し、判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。地球儀から緯度・時差を答える問題では、正答率が60%近くあり、また、人口に関する問題や略地図から農産物と道県の位置を問う問題でも50%以上の正答率であり、基礎的・基本的事項についてはほぼ理解できている。しかし、地球儀から方位を調べる問題や、複数の資料を読み解き、その特徴を判断する問題では、正答率が10%前後にとどまっているため、今後は資料や地図を活用して多面的・多角的に考察し判断していく力や、資料から読み取ったことを適切に表現する力を養っていく必要がある。

②は、資料や図をもとに、歴史の大きな流れと各時代の特色についての基本的事項の理解をみるとともに、日本と外国とのつながりについて考察し判断する力や、適切に表現する力をみる問題であった。土地制度の問題、その時代の人物やできごととの関係を問う問題では、正答率が50%を越えており、基本的事項の理解はできている。しかし、貿易の形態や近代産業を育てる政策の問題では正答率が10%台、貿易の目的や憲法を学んだ理由を説明する問題では、正答率が20%台にとどまっているため、多角的・多面的に判断する力や表現する力の育成が望まれる。

③では、図をもとにした、国の政治、金融と財政の問題で正答率が60%を越えたものが多く、新しい人権についての問題でも正答率が80%近くまで達した。このことから、公民分野における基本的事項の理解ができていることや、現代の社会的事象に高い興味・関心を持っていることがうかがえる。

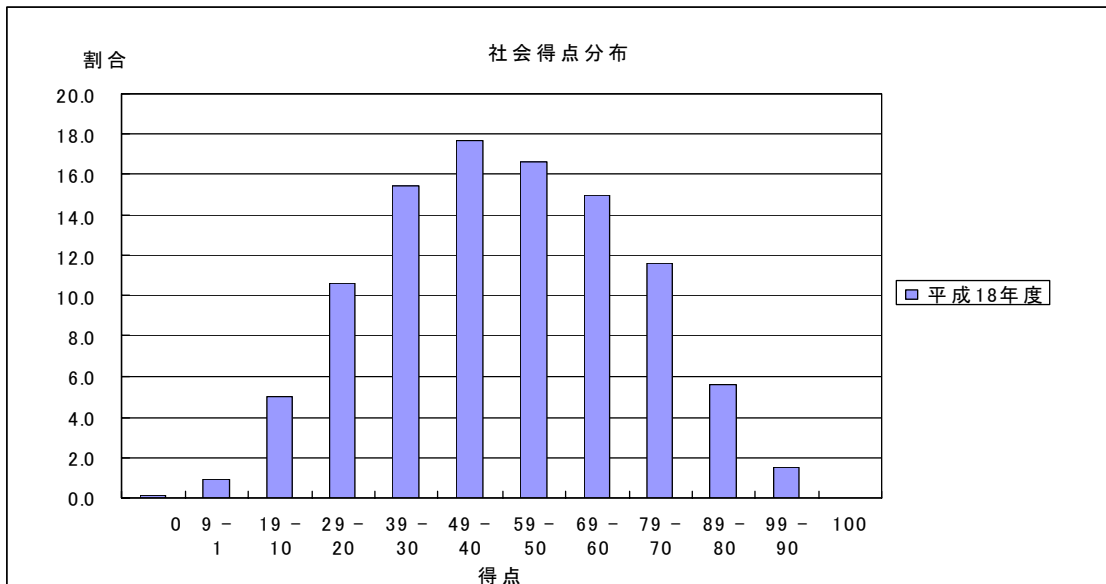
全体的に、地理・歴史・公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかしながら、今後は資料からさまざまな情報を適切に読み取って表現する力を育成する必要がある。また、資料をもとにして、貯えた知識を活用して総合的に思考・判断する力を高めていく指導が望まれる。

社 会

問 題 区 分		正答率 (%)	
1	1	(1)	31.5
		(2)	58.9
		(3)	18.2
		(4)	57.2
	2	(1)	65.1
		(2)	50.5
		(3)	44.7
	3	(1)	68.3
		(2)	59.9
		(3)	8.4

問 題 区 分		正答率 (%)		
2	1	(1)	50.3	
		(2)	42.8	
	2	(1)	51.2	
		(2)	13.9	
	3	(1)	43.4	
		(2)	36.4	
	4	(1)	17.7	
		(2) 記号	45.5	
		(2) 理由	20.2	
	5	(1)	61.0	
		(2)	30.2	
	3	1	(1)	58.9
			(2) B	80.0
			(2) 記号	60.8
		2	(1)	60.0
(2)			40.5	
(3)			65.2	
(4)			33.0	
3		79.0		

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平18 (100点満点)	50.0	19.9



理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「複数の実験や観察から得られたデータを組み合わせて1つの結論を導き出す問題であり、よく工夫されている。」「すべての問題に実験・観察が取り入れられていて、体験的な学習の重要性を感じた。」「理科の四分野からまんべんなく出題され、実験や観察の結果の表やグラフをうまく組み合わせ、その解釈や自分の考えを表現する力を問う良問である。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、巻き貝などの小動物は消費者であること、微生物が有機物を分解すること、その結果、有機物は二酸化炭素などに変化することなど、生物相互のつながりや物質の循環についての基本的な事項を問う問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。しかしながら、対照実験の方法を問う問題や、複数の観察、実験の結果から総合的に記述する問題は正答率が低く、今後さらに自然を探求する能力や態度、結果を考察して表現する能力を育成していくことが望まれる。

②では、水とエタノールの混合比から密度の大小を考察する問題や、気体の温度変化のグラフから発生する気体を考察する問題は、比較的正確率が高い。このことから、観察、実験を通して、物質の性質や状態変化の特徴を見いだす力は身につけているといえる。しかしながら、実験装置の操作を問う問題や、2つの実験結果からエタノールの体積を求める問題などは正答率が低く、今後は実験操作の基礎的な技能を習得させることや、複数の実験結果を関連させて考察する力などを育成することが望まれる。

③では、示相化石の種類や、柱状図を描く問題は正答率が高く、地層のでき方や重なり方に関する基本的な事項はおおむね理解できているといえる。一方、火山灰を観察する操作や、火山噴出物の特徴と噴火のしかたの関係、火山灰が地層を対比する手がかりになる理由など、火山噴出物を手がかりに大地の活動について考察する問題で正答率が低く、野外観察や実験等の体験的な活動をさらに多く取り入れ、自然を科学的に調べる能力を育成する必要があると思われる。

④では、電流計の取扱い方をみる問題は正答率が64%と高く、おおむね理解できているといえる。一方、コイルを流れる電流と力の関係を問う問題、電熱線を並列につないだときにコイルにはたらく力や電流の大きさを問う問題、整流子のはたらきを記述する問題で正答率が低く、今後、観察、実験の結果をもとに表やグラフなどから考察する力を養う必要があると思われる。

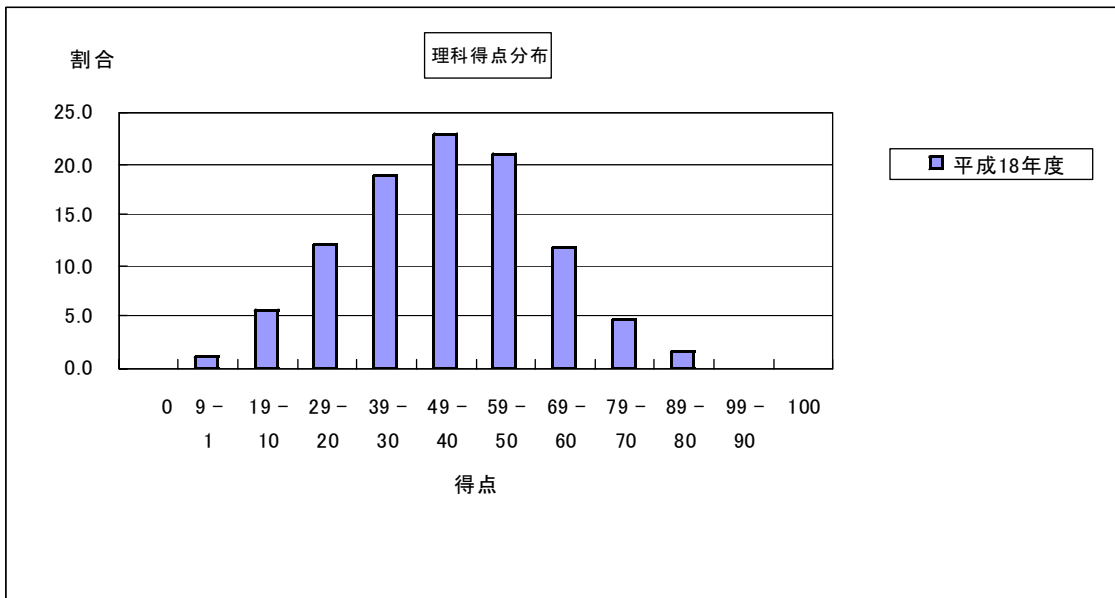
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事象を科学的に考察する力、およびその考察を的確な言葉で表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的な知識を基に科学的に考え、表現できる能力の育成が求められる。

理 科

問題区分		正答率(%)
1	1	62.5
	2	54.0
	3	89.6
	4	40.9
	5	15.6
2	1	42.2
	2	59.0
	3	42.5
	4	4.3
	5	58.0

問題区分		正答率(%)
3	1	69.3
	2	80.9
	3	17.9
	4	41.8
	5	(1)
(2)		44.4
4	1	64.3
	2	28.7
	3	26.3
	4	12.9
	5	4.2

年 度	平均点	標準偏差
平18 (100点満点)	44.6	16.7



英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの、実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「量・質ともに中学校3年間で学習する基礎的な英語の到達度を測るのに適した設問であった。」「英文の理解や、様々な場面に応じて英語で表現する力を評価するのに適した問題である。」「実践的コミュニケーション能力を見るよう工夫された問題であった。」「複数の英文を書かせる作文の設問が出題されており、自分の意見や考えを表現する力を問う良い出題である。」「中学生にとって親しみやすい題材が取り上げられているとともに、国際理解を図る文章問題が出題されていた。」「コミュニケーション能力と文法や読解力を測る問題がバランスよく出題されている。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の聞きとり問題では、絵や英文で示した選択肢から選ぶ問題の平均正答率が81%と高く、基礎的な聞きとりの能力は身につけていると考えられる。中学校の授業において「聞く・話す」活動に積極的に取り組んでいることがうかがえる。しかし、10文程度のまとまった内容のスピーチを聞き、具体的な内容や大切な部分を理解し英語の問いに英語で答える問題や、会話の流れにあうよう英語による応答を自分で作文する問題は、正答率が低い。具体的な言語の使用場面で、比較的長い分量の英語を聞きとったり、英問英答などの指導を一層充実させることが望まれる。

②は、ふたりの生徒が「私の好きなこと」について語ったスピーチを題材にした問題である。空所に語や文を補ったり、スピーチの内容と一致する選択肢を選ぶ問題は、高い正答率であり、大意を読みとる力は身につけてきていると言える。しかし、英文の内容を正確に読みとり理由を記述する問題や、指示語の内容を抜き出したりする問題、また、「自分の好きなこと」について英語で表現する問題は、正答率は低かった。今後さらに、身近な出来事や様々な話題について自分の考えや気持ちを聞き手に理解してもらえるように表現する経験を積み重ねながら、実践的コミュニケーション能力を育てる指導が必要と思われる。

③は、生徒と先生の会話を題材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における慣用表現についての問題や会話の流れや概要を把握しているかをみる問題の正答率は50～70%程度と比較的高かったが、語句を正しく並べかえる問題や2文以上の英文で表現する問題の正答率は低かった。場面や状況に応じて、必要な情報を聞き手や読み手に正しく伝わるように英語で表現する力を伸ばすことが求められる。

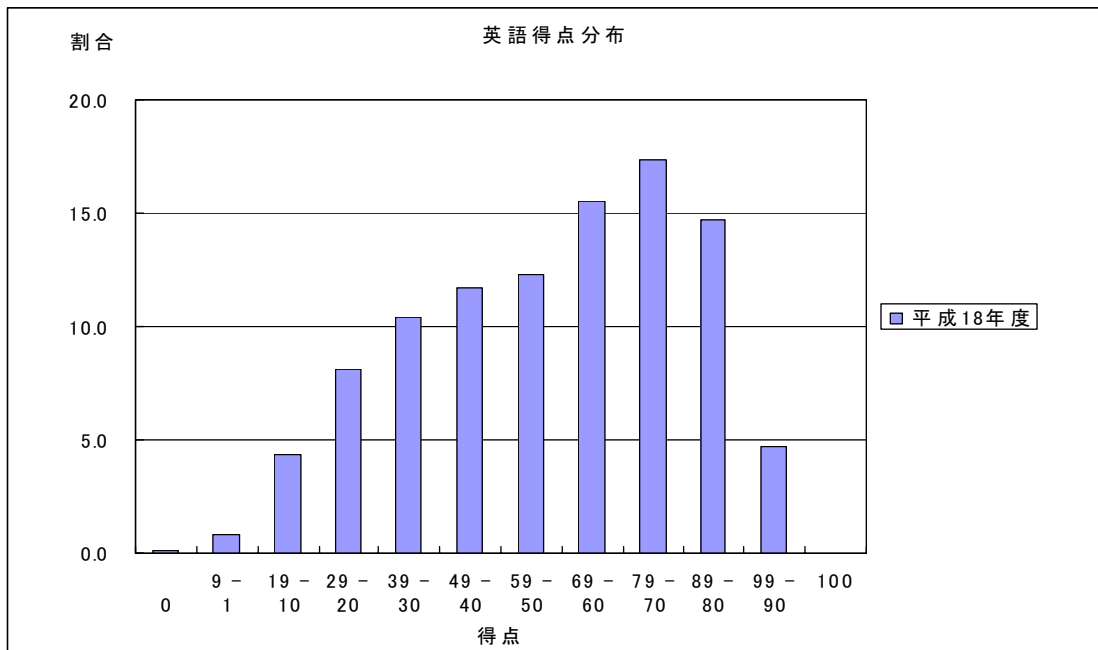
全体的に、基礎的な英語を聞いて概要を理解する力や、英文を読んで全体を把握する力はあるが、まとまった内容の細部の聞きとりや、英文の内容の正確な読みとりはまだ十分とは言えない。また、実践的コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、基本的な英語の語順や構造等の定着を一層図るとともに、ある程度まとまった分量で自分の考えや気持ちを表現する力を、今後さらに育成することが望まれる。

英 語

問題区分		正答率(%)
1	《その1》	1 91.9
		2 95.3
		3 90.6
	《その2》	1 83.3
		2 83.8
		3 71.5
		4 52.6
	《その3》	1 12.6
		2 5.3
	《その4》	
2	1 62.2	
	2 17.6	
	3 27.2	
	4 10.4	
	5 81.2	
	5 56.5	
	6 23.9	

問題区分		正答率(%)
1	①	69.7
	④	74.0
2		75.3
3		85.6
4		64.8
3	5 19.7	
	6	(1) 22.6
(2) 40.3		
7		52.5
8	(1) 49.5	
	(2) 9.7	

年 度	平均 点	標 準 偏 差
平18 (100点満点)	58.0	22.3



[単位制 転・編入学、通信制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、42人（昨年度48人）の出願者があり、定員40名に対し、1.05倍（昨年度1.20倍）の倍率となった。また、通信制の課程については、定員320名のところ第1次では、241人の出願者（昨年度265人）に対して、241人（昨年度265人）が入学許可予定者となり、第2次では、89名が入学許可予定者となり、合計330名が（昨年度338人）が入学許可予定者となった。

表8 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者	二次選抜		合計	
		募集定員	出願者数	入学許可 予定者数	率		出願者数	入学許可 予定者数	入学許可 予定者数	募集定員 との差
		A	B	C	C/A		D	E	F=C-D+E	F-A
平成 18 年度	転 編 入	40	42	37	0.93	0	3	3	40	0
	通 信 制	320	241	241	0.75	0	89	89	330	+10
平成 17 年度	転 編 入	40	48	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	265	265	0.83	0	73	73	338	+18